

## 産業構造審議会 製造産業分科会 車両競技小委員会（第10回）

### 議事要旨

日時：平成30年5月14日（月曜日）15時00分～16時45分

場所：経済産業省本館2階西3共用会議室

#### 出席者

岡委員、絹代委員、久保委員、牧田委員、三井委員、村山委員、笹部オブザーバー、佐久間オブザーバー

#### 議題

1. 委員長の互選について
2. 競輪・オートレースを巡る最近の状況について
3. 課題解決に向けた今後の具体的取組について

#### 議事概要

田川前委員長が前回委員会をもって退任したため、新たな委員長が選出されるまでの間、事務局により議事進行。

議事に先立ち、事務局から、JTB 古野常務執行役員・法人事業本部副本部長が新たに委員に就任した旨の報告を行った。その後、会議及び配付資料を公開とすることを説明し各委員了承。

議題1に関し、委員長の互選が行われ、久保委員長が選出。

その後、久保委員長が議長となり議題2及び議題3を進行。

事務局から議題2の説明、JKA及び全輪協から議題3の説明が行われ、その後各委員等から意見が述べられた。主な意見と質疑応答は以下のとおり。

- 当審議会の役割を整理した方がよいのではないか。JKAや全輪協といった組織をまたがる調整事項についての審議を当審議会で行うなど、効率的な議論の進め方を検討すべきではないか。
- 肖像権等の権利関係をどこかが集中管理すべきではないか。肖像権はお金を産む一方、トラブルにもなりやすい。競輪をリ・ブランディングしていく時のイメージ戦略は大事。
- JKAと全輪協の説明の中で、開催中止になった場合のリザーブ（基金積立て）が、JKAは1か月分、全輪協は2か月分となっていた。一緒に新しいものを作っていく中で、双方の擦り合わせが必要だったのではないか。
- 今、売上げが上がっているものの、本場はここ10年でかなり減ってきており危機感を持つべき。スポーツ性などの魅力を高めるべき。

- 先導的施行者は4～8場とのことだが、(インセンティブや義務が) 全て同じでなくてもよいと思う。1～2場でもモデル場のようになったらよいのではないか。また、選定基準で一番重要なのは、担当者のやる気だったり、アピールの工夫だったりだと思うが、数字には表しづらい。
- JKAの組織・人材改革については、スピード感をもって取り組んでもらうことは重要だが、半年や一年で完成するものではなく時間のかかるものだと思う。
- 財源確保や意思決定プロセスについては、法律改正の必要性もあると思う。また、JKAが今以上にイニシアティブをとれるように、現自転車競技法上の8項目の法定業務の見直しについても突っ込んで考えるべき。
- 全輪協の参考資料に顧客向けに行っているサービス等が記載されているが、情報としては宝の山だ。売上が上がったが入場者数は減っている状況で、地域社会の中で43の競輪場が受け入れられる事業を目指すなら、この情報は外してはいけないと思う。
- 当事者が、チャンスをチャンスとしてとらえられるのか、そうでないのかは、関係する団体の熱量の問題である。小さな成功事例を作って、今後はそれをみんなで取り組みたいという機運を醸成してほしい。
- JKAの資料に記載していることが全て実現すれば、競輪界は必ず変わると期待しているし、施行者も一緒に前向きに取り組んでいく。
- 顧客が「本場へ行きたい」と思うためには何をやっていくべきか考えていくことが必要。入場料収入がほとんどなく、車券売上げに偏り過ぎている。(車券発売以外の) 周辺ビジネスにも取り組むべき。
- 選手の勝敗情報はあるが、選手のストーリー(思いや人柄等)に関する情報が圧倒的に少ない。スポーツの面白さはそこにあると思う。選手OBの活用も足りない。顧客は選手個人とのつながりを求めている。OBを活用した情報発信をもっと行っていくべき。
- 顧客向けに行っているサービス等が宝の山だということは、内部にいる人は気が付きにくいものであり、外部のリソースを使うことが重要。また、組織の改革については、トップの思いをどう担当者や現場に伝えていくかも大事。
- 今後、審議会における議論のやり方や法制面の検討など、国に検討して欲しいこともお伝え頂きたい。具体的な制度設計を夏までの短期間で行うこととなっており、しっかり検討を進めて頂きたい。

※なお、本議事要旨については、速報性の観点から発言者の確認は取れておらず、後日発言者の確認が取れたものを議事録として掲載する予定である旨申し添えます。

お問い合わせ先

製造産業局 車両室

電話：03-3501-1694

FAX：03-3501-6731